

『地域におけるがん患者団体等との
連携と協働の現状について』

in 和歌山

がん相談支援センター がん相談員の立場から

【報告者】

公立那賀病院 がん相談支援センター 腰田典也

対象

✓ 和歌山県内のがん相談支援センター(全9施設)

和歌山県立医科大学附属病院

＜県がん診療連携拠点病院＞

日本赤十字社和歌山医療センター

＜地域がん診療連携拠点病院＞

橋本市民病院

＜ ” ” ＞

紀南病院

＜ ” ” ＞

国立病院機構 南和歌山医療センター

＜ ” ” ＞

公立那賀病院

＜ ” ” ＞

和歌山労災病院

＜県がん診療連携推進病院(県指定)＞

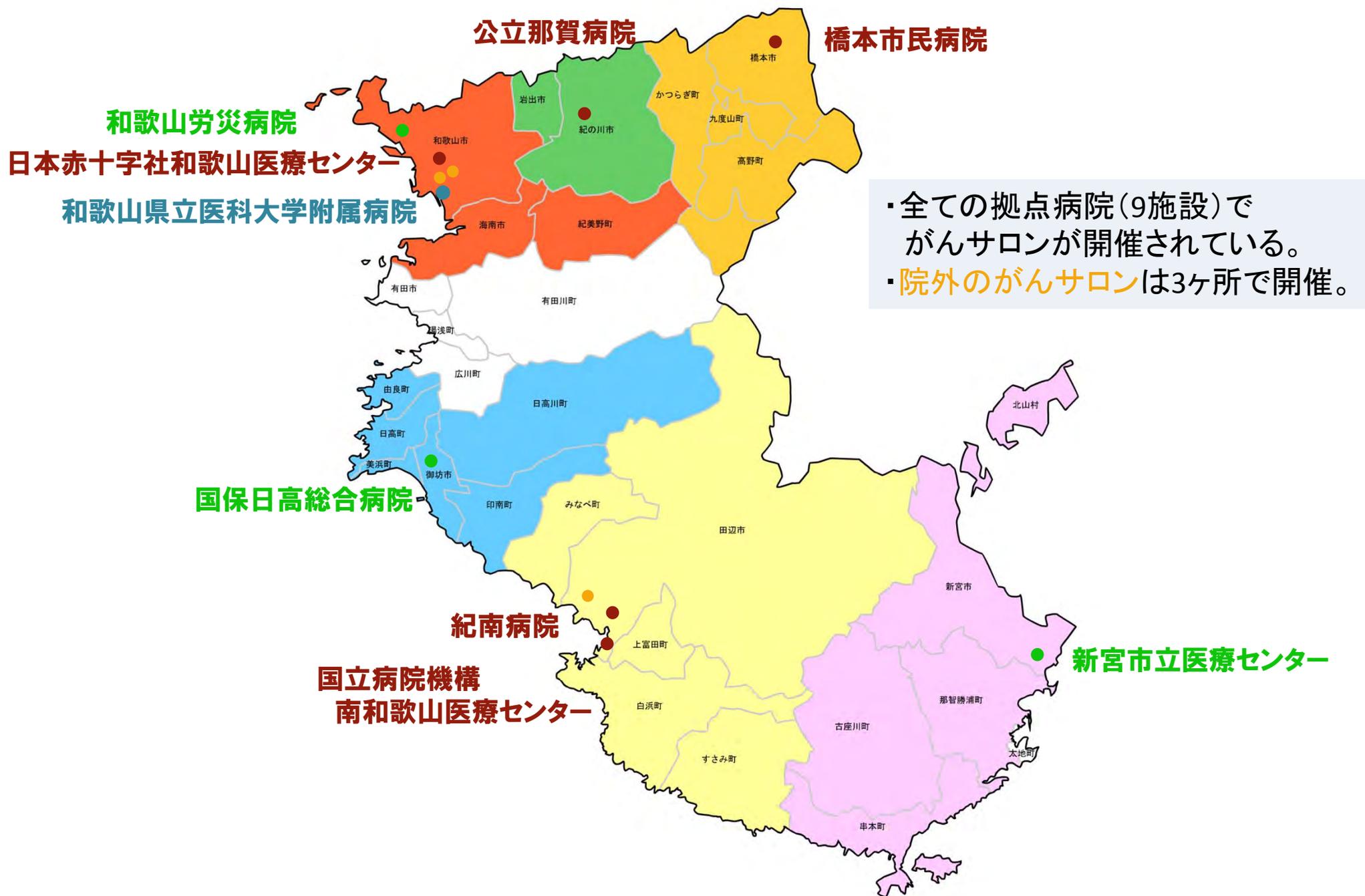
国保日高総合病院

＜ ” ” ＞

新宮市立医療センター

＜ ” ” ＞

和歌山県のがん診療連携拠点病院(国指定)・がん診療連携推進病院(県指定)とがんサロンの位置



方法

- ✓ メーリングリストを用いて、各施設にがん患者団体等との連携と協働の現状や取り組みについて伺った。
- ✓ 県内全てののがん相談支援センター(9施設)に回答を依頼した。
- ✓ 回答方法は、メーリングリストへの返信、個別のメールアドレスへの返信、その他の希望する方法でよいとした。
- ✓ 回答でさらに確認したいことがあれば、個別に電話で確認を行った。
- ✓ 回答は、県内全体としての現状報告のために使用するもので、1施設を取り上げるためのものではないこと。後述する質問項目5～7は施設名を公表しないことを記載した。
- ✓ 回答を基にして現状報告の資料作成を行った。

質問項目

1. がんサロンの支援や協働の現状について
2. がん患者会の支援や連携の現状について
3. ピアサポーターとの連携と協働の現状や取り組みについて
4. 地域活動の取り組みについて
5. 連携や協働を行うにあたって、(相手方に対して)
配慮していることや難しさを感じていること
6. 連携や協働を行うにあたって、現在障害となっていることや
課題と感じていること
7. よりよい連携や協働のために、新しく取り組みたい又は取り
組んだ方がよい(実際に取り組むのが現在は難しいとしても)
と考えていること

1.がんサロンの支援や協働の現状について

「院内のがんサロン」

- 全ての拠点病院で開催。1ヶ月に1回の開催が最も多かった(5施設)。
- 開催の支援や協働をしている(7施設)。院内他部署が支援(2施設)。
- 内容は事務局を担ったり、イベント、勉強会の企画、ピアサポーターとともにお世話係などを担当。

「院外のがんサロン」

- 市民団体によって県内3ヶ所で開催。
- **支援や協働をしている施設はみられなかった。**

2.がん患者会の支援や連携の現状について

- 3施設で支援を行っていた(2施設;乳がん患者会,1施設;全がん患者会)。
- 内容は院内開催時の会場準備、スタッフ。
不定期に講演会・催し・旅行の企画などを担当。
- 講演会を共催しているところがあった。

3-1.ピアサポーターとの 連携と協働の現状や取り組みについて

・「和歌山県がん患者ピアサポーター養成研修」に協力

■■ 日本対がん協会 がん総合相談研修プログラム ■■

<受講生募集> がん患者ピアサポーター 養成研修（サロン編）

がん経験を持つあなただから、できることがあります

がんを体験した人やその家族が、「体験を共有し、ともに考えること」で、がん患者やその家族などを支援していく活動をピアサポートといい、医療の専門家でなくてもできる患者・家族のサポートとして注目されています。和歌山県内にも「がん患者サロン」などの場で実際にピアサポートが行われてきました。（がん患者サロンとは病院の会議室などで患者やその家族が交流や情報交換をする場です）
今回は原則として、ピアサポーター養成研修「初級」を受講し修了した方を対象に開催いたします。



第4回 和歌山県がん患者ピアサポーター養成研修（サロン編）の概要

日程	2014年9月27日（土）10:00～16:30（受付9時30分開始）		
会場	和歌山ビッグ愛9階会議室A （和歌山市手平2-1-2） ☎073-435-5245		
資料代	1,500円（テキスト・DVD・お弁当代を含まず）		
申込方法	募集要項と開催要項をよく読み、申込書（2枚組）に必要事項を記入の上、下記NPO事務所あてにFAXまたは郵送で申込みしてください。		
主催	NPO法人いきいき和歌山がんサポート	募集定員	約20名
共催	和歌山県健康推進課	応募締切	9月16日（火）

※この研修はわかやま地元元力応援基金の「事業指定助成プログラム」により開催されます。

お問合せ
[事務局]

〒640-8267 和歌山市芝ノ丁8番地 NPO法人いきいき和歌山がんサポート
電話・FAX 073-427-6050 (090-6964-5462 担当：石井)
メール：ikiiki@jimotoryoku.jp ホームページ：http://jimotoryoku.jp/ikiiki/

募集要項・申込書をご希望の方は事務局までご連絡ください。ホームページからダウンロードすることもできます。

- ・県から委託を受けている市民団体からの依頼。
 - ・講師やファシリテーターとして協力（4施設）。
 - ・これまで協力した施設は、市民団体から個別に依頼を受けて対応していた。
 - ・平成25年度の第2回がん患者ピアサポーター養成研修から継続。
 - ・現時点では、平成26年度の第4回養成研修が最終となっている。
- ⇒市民団体は個別に依頼しなければならなかった。

3-2.ピアサポーターとの 連携と協働の現状や取り組みについて

・ピアサポーターとの「合同勉強会」を開催

平成26年9月20日に開催（半日企画）。

- ・がん相談支援センターから市民団体に呼びかけ。
- ・参加者；がん相談員21名。ピアサポーター9名。

- ・県内全てののがん相談支援センター（9施設）から参加。
- ・ピアサポーターの呼びかけは、ピアサポーター養成研修を実施している市民団体から受講者対象のメーリングリストを通して実施。



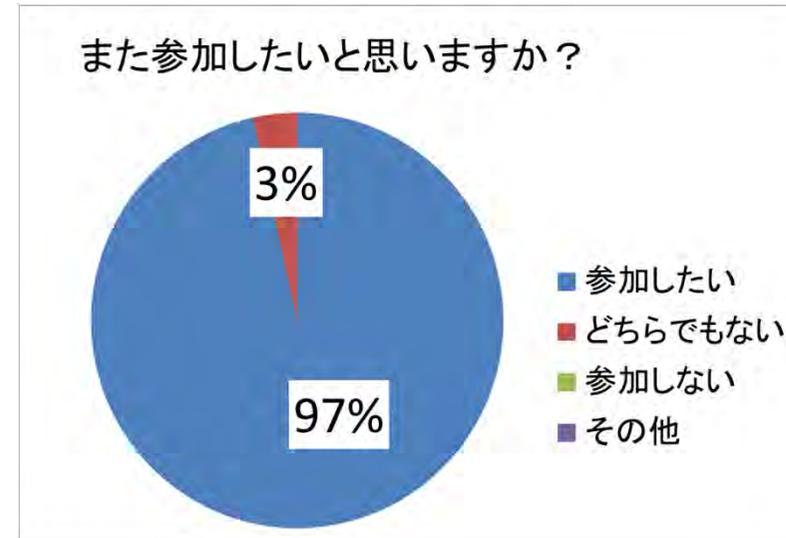
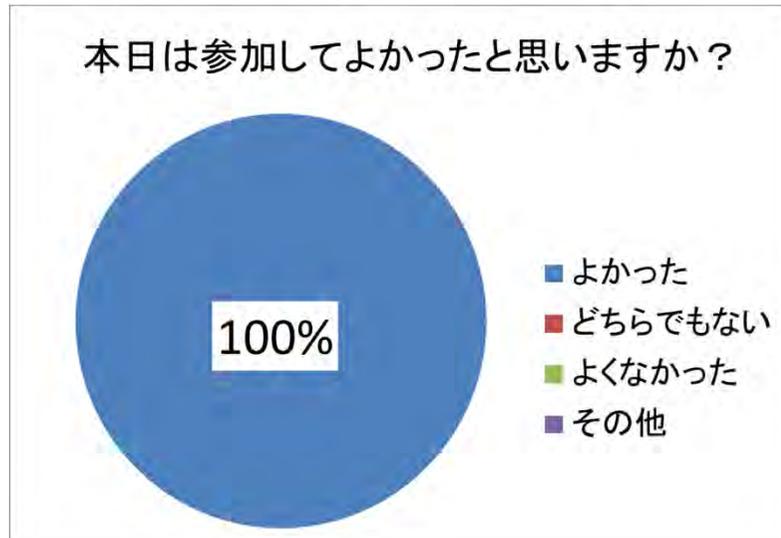
▲合同勉強会の講演中の様子



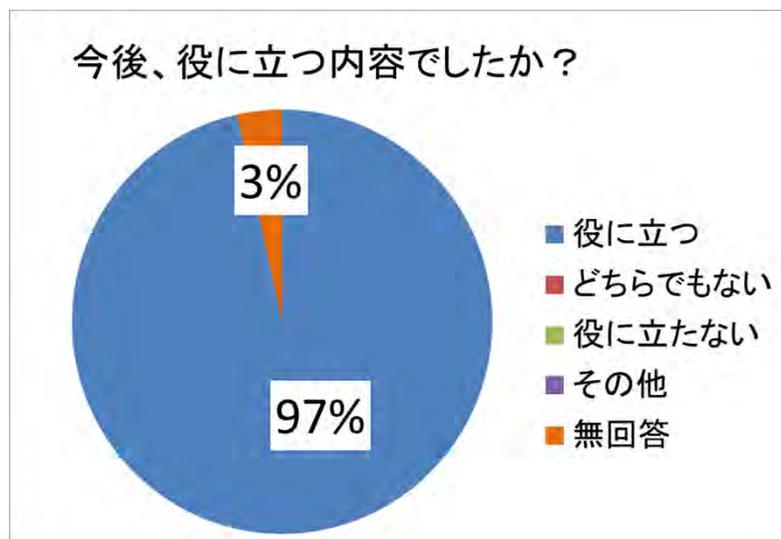
▲合同勉強会の座談会の様子

3-2.ピアサポーターとの 連携と協働の現状や取り組みについて

- ピアサポーターとの合同勉強会アンケート結果(抜粋) -



(n=29)



<自由記載の内容(抜粋)>

- ・病院のスタッフとの話し合いができてよかったです(ピアサポーター)
- ・立場の違う人との勉強会はお互いの役にたつと思います(ピアサポーター)
- ・ピアの方のお話を聞かせていただく良い機会になりました(がん相談員)

3-3.ピアサポーターとの 連携と協働の現状や取り組みについて

- 「和歌山県がんサロンネットワーク」の発足

市民団体の提案によって平成24年7月7日に立ち上げ。

<対象>

がんサロン担当者、がん患者会、市民団体、行政、がん相談支援センターなど。

<内容>

年1回程度の情報交換会（平成25年10月20日、平成26年8月31日）

活動報告。参加者間での意見交換。

がんサロンの立ち上げや連携強化についての提案など。

現在のところ規約や事務局の設置はなく、有志の参加。

4.地域活動の取り組みについて

・ 和歌山県立図書館と、 「がん患者・家族、県民のための公開講座」を開催

和歌山県立図書館 スプリング遊ing2014 記念講演会

**がん患者・家族、県民のための
公開講座**

「がんと向き合って」
講師：朝日新聞長野総局次長
上野創（はじめ）氏

私はがんを体験し、また、多くのがん患者やご家族、ご遺族の取材をして、この病気は、患者や周りの者に、さまざまな本質的なことを突きつけて来ると実感しました。がんは、心に恐怖と不安をもたらし、体に治療の苦しみを強いるものですが、同時に、多くの学びと気づきを与えてくれる側面もあります。誰にもやってくる終末に向けて、どう自分らしく生きるのかということをずいぶん考えました。病を抱えても、仲間を見つけ、支え合って生きることができると感じました。きれいなことでは済まない、けれども不幸一色に染りつづけられるわけではない、そのような、がんと向き合う経験についての私の話が、何かしら皆様のヒントになればと思います。

平成26年3月16日（日）14時～15時30分
受付開始13時30分～
和歌山県立図書館 メディア・アート・ホール
和歌山市西高松一丁目7番38号
TEL073-436-9500

入場無料（申し込み必要）定員200名程度
駐車場が混雑しますので、公共交通機関をご利用下さい

【お申し込み・お問い合わせ先】裏面の申込用紙にてお申し込み下さい
和歌山県立医科大学附属病院 地域連携室
TEL 073-441-0778 FAX 073-441-0862
主催：和歌山県立医科大学附属病院・和歌山県立図書館

- ・平成25年度から和歌山県立医科大学附属病院と和歌山県立図書館が共催。
- ・県立図書館では、がん関係図書コーナーの設置、院外サロンの会場提供などを行っていた。
- ・県立図書館から一緒に取り組みを考えたいと提案があり、連携を始めるきっかけとなった。
- ・講師は、県立図書館が本の著者を中心に候補を選出する。
- ・年1回開催。

5.連携や協働を行うにあたって、 (相手方に対して)配慮していることや難しさを感じていること

- ① ピアサポーターとの距離の取り方に配慮している。
- ② 相談員に向けられる要望への対応についての難しさを感じる。
- ③ 実際に体験されている方の意見は説得力がある反面、もし修正点があった場合に、声をかけるべきか気を遣う。
- ④ サロン開催日時と他業務の忙しい日時が重なっているが、短時間でも参加するようにしている。
- ⑤ ピアサポーターの方が他の人の話を聞いて精神的にしんどくなっていないかサロン後に、様子を伺っています。

等の回答がみられた。

6.連携や協働を行うにあたって、 現在障害となっていることや課題と感じていること

- ① サロンを企画・運営していただける主となる患者さんがなかなかおられない。
- ② サロンへの取り組みについて、病院としての理解や協力をなかなか得られない(特に運営にかかる費用面)。
- ③ 患者会やサロン運営に、がん相談支援センター以外の職員のかかわりが薄い。
- ④ サポートしている患者会の取り組みが中心となり、他の患者会や団体との連携が十分にとれているとは言えない。
- ⑤ 患者会、家族会の立ち上げなどは、積極的に取り組めていない。

等の回答がみられた。

7.よりよい連携や協働のために、 新しく取り組みたい又は取り組んだ方がよい (実際に取り組むのが現在は難しいとしても)と考えていること

- ① サロン活性化のため、理解のある医師をもっと巻き込んでいきたい。
- ② サロンがピアサポーターの方を含め、メンバーが固定化してきているので、新しい人が入り込め、定着するようにしていきたい。
- ③ サロンメンバーの意見を聞きながら、もう少しサロンを活発にしたい。
- ④ 病棟看護師との交流も必要だと感じている。もっと積極的なパイプ役となる必要がある。

等の回答がみられた。

まとめ①

- 和歌山県におけるがん患者団体等との連携や協働の現状を知るために、県内のがん相談支援センター(全9施設)に現状や取り組みを伺った。
- 院内のがんサロンは全ての拠点病院で開催されていた。7施設が支援や協働をしていた。
- 院外のがんサロンの支援や協働をしている施設はみられなかった。
- がん患者会の支援は3施設が行っていた。そのうち、2施設が乳がん患者会、1施設が全がん患者会を支援していた。
- がんサロンネットワークやピアサポーターとの合同勉強会など、県単位の規模での取り組みが実施されていた。

まとめ②

- がんサロンに関して、障害や課題、新しく取り組みたいことの回答が多くみられ、がんサロンの運営の苦労が伺えた。
- がんサロンが支援や協働の場として大きな役割を占めていると考えられた。
- 地域活動の取り組みとしては、和歌山県立図書館との公開講座が開催されていた。
- サポートしていない患者団体との連携や、新たな患者会・家族会の立ち上げ等、連携や協働をより広げたいという回答もみられた。